



號五十二第
月十年四十四和昭五
行發日五・回一月每
錢五金部一價定誌本一
錢拾六金(共稅)年

武力戦と宣傳戦

— 宣傳と國民性 —

邊成烈

西洋の諺に『ペンと剣よりも強
the sword』と言葉がある。東
洋でも昔から文は武に勝るとか、
劍は一人を相手とするが筆は萬人
を相手とするといったものだ。一
口にいへばさしこぶる簡單である。
クラウゼイツは戦争の三つの日
的の一つに輿論の制壓を掲げブリ
アンは『劍とペンとは同じ鐵より
成る』といった。さればこそ平時
に於いてはペンで書くことを商賣
としてゐる新聞記者を稱して無冠
の帝王といひ戦時に於いては武力
戦と宣傳戦とは戦争の勝敗に同一
價値を持つといつてゐるのも決して
過言ではあるまい。

ProPanda 即ち宣傳といふ
言葉は歐洲大戰前までは専ら宗教
上の用語で教義の鼓吹とか布教と
かを意味した。それが大戰當時英
國によつて戦術に引用され遂にカ
イザーをして『獨逸は英國のノー
スタリツフの宣傳戦のため負けた
のだ』と長嘆息を發せしめる程の
完成の域に達した。たとへば武力戦
において如何に赫々たる戦果を収
めても宣傳戦において敵の制壓を

受けるかまたは敵を制壓しないな
らば結局に於いては『赫々たる
戦果』の收め損となり物的的的犠
牲の拂ひ損となる譯である。この
事は歐洲大戰の活きた教訓が雄辯
に物語つてゐる。
二、宣傳の意義
人間は誰でも大抵の場合強者に
反感を持ち弱者に同情を寄せるも
のであり又自分と利害の相衝突す
るものには反感を持つが、利害の
一致するものにまづ本能的に同情
を寄せるもの。又何か目的あつ
て撒布する宣傳でなくとも人間社
會には多少は流言蜚語が無意識中
に流行するのが常であるがそれが
社會秩序が比較的平穩である場合
には大事には至らないが一朝社會
秩序が大きく動揺した時にはその
不安と恐怖とが増大し従つて流言
蜚語がもつともらしい顔をして流
行するものである。
今日では國際間の紛糾は一否個
人間でもさうであるが一にも宣
傳二にも宣傳で御互に有利に事件
を導くとする傾向がある。併し眞
實の宣傳は自家吹聴でもなければ
辯解でもない。況んや欺瞞や泣訴
などでは斷じてない。

宣傳は國家が一つ一つの行動に
就いて内外に向つて旗幟を鮮明に
するセズチュアである。だから宣
傳の最大の意義は内外の良心を納
得させることである。而して内外
を納得させるためには雄辯である
ことが必要である。然し『繼續し
た雄辯は問々聴衆を退屈させる』
とパスカルは言つてゐる。してみ
れば宣傳は雄辯でなければ宣傳でな
く而も繼續した雄辯はやがて民衆
を厭きさせるものだ。
この意味に於いて戦争宣傳の主
宰者は他人を泣かしたり怒らした
りする代り自分は冷徹氷の如く而
も奔放自在の能力を備へてゐなく
てはならぬ。
三、宣傳の天才
大戰當時の英國政府の宣傳相ノ
ースクリフ卿は確かに宣傳の天
才であつた。ヒトラー總統も『お
が闘争』の中で『英國は宣傳の天
才だ。この天才は大戦中宣傳の鋒
先をもつばらドイツに向けられ四
ヶ年半の後遂にドイツに革命を起
さしめた』と慨嘆してゐる。
ノースクリフ卿は宣傳心理を最
も良く利用した。デーリー・メイ
ル紙の主筆であつたキャンベル・
ステューワート氏著『クリュー・ハ
ウスの秘密』を讀むと彼の腕前が
あり／＼と判る様になる。大戰當
時の英國宣傳本部はメーフェアア
のクリュー・ハウスである青々た
した芝生と樹木の縁に臨んだ清酒
たる三階建てでその宣傳局長であ
つた宣傳の天才ノースクリフ卿及
その一派のやり方は寧ろ戦慄を覺
えしめるであらう。
大戰も既に末期になつた頃彼は

『獨軍は死人の肉を食ひ食糧難の
ため死者から油を搾つてバターを製
り始めた。人間の脂肪を分解しグ
リセリンをつくりダイナマイトを
製造してゐる』と書き立てた。
彼は自分のデーリー・ニューズ
紙を一躍十倍に増刊し余紙を擧げ
てドイツ階級の毒筆を世界的に揮
ひ宣傳ビラを獨逸陣地飛行機で盛
んに投下し戦意の沮喪と戦線攪亂
をアゲつた。彼の宣傳がアメリカ
の輿論を沸騰させ人心を激昂せし
めてゐる矢先にルシタニア撃沈事
件が起つた。單純な米人は人道の
敵ドイツを憎悪せよと叫んだ。遂
にアメリカも參戦しドイツは武力
戦に於いては一兵をも自分の領土
内に入れさせなかつたが宣傳戦に
敗れ遂に惨敗の苦盃をなめた。
四、新設された英國
情報省
今度英國は參戦ときまつた途端
に英國放逐協會(B.B.C)顧
問會議々長のヒュー・マクミラン
を大臣とし新に情報省を新設し
た。これが往年のクリュー・ハウ
スに代り英國の宣傳作戦の本據と
なる譯である。省として新設で
あるが實はこの母體は先般來外務
省内に『影の情報省』として既に
存在してをり去る七月二十八日の
議會でいざ戦争の曉には直ちに省
とすべく計畫され豫算二十六萬ポ
ンドをもつて擴大強化の案が決つ
てゐたものなのだ。
歐洲の宣傳戦は決して今度の戦
火と共に始まつたのでなく既に去
年の獨逸合併頃から猛烈な勢ひで
開始されてゐる。それが去年の秋
のミュンヘン會議を経て今春のチ
ェコ解體となると獨逸間の角突
合ひはいよいよ深刻となり九月二
日英國の宣戰布告と同時にラヂオ
網は英佛獨の宣傳電波で全地球上
に火花を散らす様になつた。
第一世界大戰の苦い經驗からド
イツでは早くゲッペルスを大臣と
する宣傳省が既に出来、又ローゼ

ンベルグと云つた口も筆も達者な
エキスパートを重用して公然と宣
傳をやつてゐた。一方大戰當時は
殆ど用をなさなかつたラヂオは今
や宣傳の花形としてこの上もなく
重寶であるだけその防戦も並大抵
でない。今回ドイツは外國放逐を
聞くものは極刑に處すと發表して
ゐる位である。
五、宣傳と國民性
今次の支那事變に於いて支那は
宣傳上手であるが日本は宣傳下手
であると云ふことに相場がきつた
様に内外共に思つてゐる向きがあ
るが私は必ずしもそうとは思はな
い。成程支那は宣傳の機を掴むの
は實に堂に入つたものだ。同時に
人の心を動かすのは實に上手であ
る。それは數千年間の歴史が斯く
國民を教育しその國民性が然らし
めたからだ。支那には春秋戰國時
代に既に今日の國際聯盟が出来て
ゐた、蘇秦張儀が辯說故に六國に
相となつたり彼等が合縱連衡の宣
傳戦に如何に鎬をけつたかを見
ればおおよそ領れるであらう。
日本人は古來、花は櫻木人は武
士といつて精神的には忠誠であり
勇敢であるが他人の心理を了解す
ることに意を用ひぬ恨がある。だ
から人を動かす力に乏しい。言換
へれば宣傳が下手である。
獨逸が宣傳下手であるのもやは
りその國民性に負ふ所が多い。昔
ゲルマン人が槍を擔ひ盾を捧げつ
ゝ軍神を祭つたのは今尚ほ今日の
ドイツ人を支配する精神である。
ドイツ人は組織を好む。従つて指
導者の命令の下に水火を辭さない
やうに育てられて居る。ドイツ人
は技術的には天分に富み精神的に
は忠實であり勇敢であるに拘はら
ず政治的には度々民族性の缺陷を
暴露した。この點はアングロサク
ソン人に比べて對蹠的であるとも
云はれよう。ドイツ民族は他民族
の心理を了解することに鈍感であ
る。他人の氣持が解らない爲め國

際政治に於いて大局の判断を誤る
ことが屢々あつた。だから對外宣
傳は多くの場合に失敗して却つて
逆效果を示した例が多い。大戰當
時多數の中立國を敵に廻すことにな
つたのは一部はこの心理的缺陷
から來たものだ。
組織的な獨逸人に對し佛蘭西人
は理窟が多い。政治でも外交でも
筋が通らない限り承服しないのが
その常癖である。英國人は事實を
基礎として理論を考究するのであ
るがフランス人は理論の眼を通し
て事實を観察するからフランス人
は人の口車にのらない。併し熱情
的なフランス人は人情に訴へた宣
傳にはもろい。
過去數百年間波瀾重疊の境遇に
育つた波蘭人は自ら其の影響を受
けないでは居ない。波蘭の歴史が
ロマンチックである如くポーラン
ド人も亦ロマンチックであり熱情
(第二面へ續く)

倫敦支局移轉
新支局と通信員設置
倫敦支局は左記ロイテル新館内
へ移轉し、また最近マニラに支局
を新設、メシコ市に新たに通信員
を置いた。
倫敦支局移轉先
社團同明通信社倫敦支局
Donet Tushin Sha,
c/o Reuters Limited,
85 Fleet Street,
London, E.C.4.
△新設マニラ支局所在地
社團同明通信社マニラ支局
Mr. Kenchi Nakaya,
Apt. No. 5, 1119,
A. Mabini, Manila, P.I.
(Tel: 56706)
△新設メシコ市通信員住所氏名
Mr. Minoru Uno,
Cia. Internacional de
Comercio, A.P. 2180,
Mexico D.F., Mexico.

# 日滿間の 専用電話開通

## 三十日落成式舉行

わが國通信科學の誇り——無裝荷ケーブルによる日滿間直通電話線が、愈々竣工したので、かねて同盟通信社から申請中の日滿ケーブル専用線が許可され、十月一日より奉天—京城—釜山—福岡をつなぐ全長一千四百杆の専用電話線が開通した。右は福岡に於て同盟國內専用線と聯絡し、奉天に於ては國通の大連—奉天—新京間専用線と繋がり内鮮滿相互間のニュースは一瞬にして日滿全土に聯絡され通信速報上一新紀元を劃すると共にニュースの量も豊富となり日滿不可分の關係を如實に示すものとしてその成果に多大の期待をかけられてゐる。朝鮮の新聞界もこれによつて非常な好影響をうけ面目を一新するに至るであらう。

日滿専用線の開通は北支との通信聯絡にも一大進展を示すもので、十月一日の開通に先立ち九月三十日午前十時より逓信省と滿洲電

日滿支を結ぶ東亞通信網の基幹をなすものである。かくて同盟通信社の専用電話線は在來の分と合せ總延長六千杆に達し、電話聯絡に寫眞電送に一大威力を加へることゝなつた。

六、正義は宣傳に勝る  
宣傳の最大の意義が内外の良心を納得させる事にあることは前述の通りである。この好例は彼の有名な張鼓峰事件に求める事が出来る。七月三十一日『日本軍は寡兵を以て、張鼓峰を不法占據せるソ軍を撃退し國境線を確保してゐる』との軍當局の發表が同盟通信社英文國際放送に依り全世界加盟通信社に向けて報導されるや各國

新聞は申し合せた様に同盟放送を送るトツト記事として掲載し當時各紙は、毎日六千語宛出す同盟英文放送の大部分を占めた張鼓峰事件記事を大々的に取扱つた。張鼓峰事件に關する同盟英文放送は實に文字通り内外民衆の良心をして現地に於いて斯くも徹頭徹尾勝利を獲得したのは日本の通信報道史上前例のない事である。

手入丁口入丁のソ聯が國民政府と組んでモスコとハバロフスク及察口から電波に乗せて宣傳これ努ためが列國の民衆は一向躍らず全

石部經理、折橋業務、福田政治、倉田經濟、岡村社會、潮海地方、高木特信、秋山運動、松村演藝、山本發送、岩本外信、横田東亞、小松商況、稻本外經、山口聯絡、牛腸寫眞、山本出版の各部長、地方側からは松方中南支總局長、神子島北支總局長、塚本大阪支社長、吉川名古屋支社長、麻生福岡支社長、船木關門支社長を始め伊藤横濱、船木關門支社長を始め伊藤横濱、山崎札幌、蒲田青森、青木福井、福井京都、青島神戸、周藤廣島、河邑熊本、磯部釜山、田端長崎、河崎京城、三増鹿兒島、土居仙臺、植松高知、山田松山、岡本大分、中住長野、荒井甲府、樋口富山、櫻金澤、瀨川函館、落新瀉杉山岡山の各支局長及び近藤大阪支社通信部長



岩永社長の急逝により全兩各地より急遽東上した各支社長の滯在を機會に九月八、九の兩日に互り本社會議室に於て部長、支社局長からは相良外信局、岡崎經濟局、鷹嘴聯絡局各次長のほか結束人事

### 職制一部改正

外信局に「滿洲部」を新設するの件は既報の如く第十七回理事會に於て決定したが、その結果現行職制の一部に左の如く改正を加へる事となつた。

記

社團法人同盟通信社職制第四章(外信局)の第十條及第十一條を左の如く改む

第十條六行目第四項の次に左記一項を挿入せり

五、滿洲國に對する特殊「ニュース」蒐集及編輯

第十一條六行目第四項の次に左記一項を挿入せり。

五、滿洲部

## 部長・支社局長會議

### 重要意義ある兩日の會議

岩永社長の急逝により全兩各地より急遽東上した各支社長の滯在を機會に九月八、九の兩日に互り本社會議室に於て部長、支社局長からは相良外信局、岡崎經濟局、鷹嘴聯絡局各次長のほか結束人事

下に左記事項を協議した。  
出席者は古野、島山、上田、堀各常務理事、伊藤參與を始め升井國通編輯局長を來賓となし本社側からは相良外信局、岡崎經濟局、鷹嘴聯絡局各次長のほか結束人事

一、上田、堀、島山各常務理事訓話  
一、來賓升井國通編輯局長挨拶  
一、岩本外信部長歐洲情勢につき報告

一、福田政治部長歐洲並に東亞情勢に關聯し國內政情の報告  
一、横田東亞部長支那及び滿蒙國境最近の情勢報告  
一、岡村社會部長地方に於ける社會記事の取材送稿について

一、潮海地方部長地方新聞の趨勢について  
一、鷹嘴聯絡局長國內同報無線通信の開始について  
一、山口聯絡部長有線電話聯絡について  
一、牛腸寫眞部長特別寫眞サークルについて  
八日の會議は午後三時十分開會上記議事を終了して同六時十分散會、同七時よりイー・ワンに於て晚餐、午後九時まで懇談をなし第一日を終つた。

一、潮海地方部長地方新聞の趨勢について  
一、鷹嘴聯絡局長國內同報無線通信の開始について  
一、山口聯絡部長有線電話聯絡について  
一、牛腸寫眞部長特別寫眞サークルについて  
八日の會議は午後三時十分開會上記議事を終了して同六時十分散會、同七時よりイー・ワンに於て晚餐、午後九時まで懇談をなし第一日を終つた。

會議第二日たる九日は、午後五時十分開會、晚餐を共にしつゝ左記議事を進め、最後に古野新社長の發聲にて故岩永社長の靈及び今次事變に殉職した陣歿された僚友社員諸氏の靈に全員默禱を捧げ、終つて古野新社長全員を激勵、かくて有益にして意義深き會議は九時三十五分閉會した。

一、神子島北支總局長北支の水害狀況その他について  
一、松方中南支總局長事變に於ける同盟現地部隊の使命及び活動について

一、吉川名古屋支社長電送寫眞、他社よりの社員牛蒡拔き、地方ニュース蒐集方法、外信解說等の件につき所感

一、塚本大阪支社長東亞經濟通信事蒐集について  
一、秋山運動部長神宮大會豫選記

一、潮海地方部長地方部の記事取扱情況について説明  
一、秋山運動部長神宮大會豫選記事蒐集について

一、潮海地方部長地方部の記事取扱情況について説明  
一、秋山運動部長神宮大會豫選記事蒐集について

一、潮海地方部長地方部の記事取扱情況について説明  
一、秋山運動部長神宮大會豫選記事蒐集について

一、潮海地方部長地方部の記事取扱情況について説明  
一、秋山運動部長神宮大會豫選記事蒐集について

# 歐洲大戰と『同盟』

## 在外特派員の勞苦や尊し

所謂九月危機説が現實となつて九月初め第二の歐洲大戰が勃發した。同盟の世界的通信網がその全能力を發揮すべき秋が来たのである。

この時我々は突如若永社長を喪つた。だが我々の任務は重い、古野新社長以下二千の同盟社員は故社長の遺志を體しつゝ黙々として非常配置に就いたのである。

九月三日午後七時四十分——我々には忘れられぬ時間である。英國の對獨逸開戦を傳へる至急報が入電したのである。英國議會に於けるチエンバレン首相の聲明が僅か廿分餘にして日本全國にフラッシュユレ、かくして日本民族は歐洲大戰の勃發を知つたのだ。恰も故若永社長の移座祭の當夜、歐洲大戰を報する號外の鈴の音を故社長は如何に聞かれたであらうか。

大戰勃發の時機は同盟には誠に好都合であつた。一旦歸社を命ぜられた井上ベリ、安達ベルリン兩前支局長は歐洲情勢の急變に備へて、新支局長の着任後も引續き前任地に待機を命ぜられてゐた。ロンドン支局には應援の河上特派員が着任した許りである。更に秋野前モスク支局長も歸國の途、バルカン諸國歴訪を終へて偶々ベルリンに滞在在中であつた。秋野特派員は逸早く緊張する獨逸國境を突破してベリに着きその手記を詳細打電して來た。人員の配置は先づ申分なし。

大戰勃發と共に歐米電報入電の

一ス統制及び檢閲にも拘らず立派な成績を擧げて居るのである。

激増した事は申す迄もない。至急報に次ぐ至急報、早朝から深夜迄否四六時中カチカチと受信の鍵の音は鳴りやまぬ。同盟電信局で平生受信する電報百通内外のものも九月三日には遂に三百五十通の新記録を作つた。入電を片つ端しから消化して『同盟』に廻す外信部員は勿論寸秒を争つて之を全國に速報する聯絡、發信、タイプ、發送の各部も晝夜兼行だ。これを受けて實際に各方面へ配布する各

先般父死去に際しては本社並に全國の支社局を始め、遠く海外各支局の皆様から御親切な慰めの御言葉が賜はり、その上時局柄御多忙なる際にも拘らず全社を擧げて東京に盛大且つ感銘深き葬儀を執行せられ、また全國、全世界の各局に於ても夫々告別式を營んでいただきましたことは遺族一同何と御禮申上げて良いかわかりませぬ唯々感激いたすのみであります。就ては社の皆様御一人々々に厚く御禮を申述べたいのが私共の氣持であります。取り敢えず紙上を拜借して、茲に謹んで謝意を表する次第で御座ります。

昭和四年九月廿五日

### 岩 永 信 吉

敬 具

支社局の繁忙も思ひやられる。それにも増して思はれるのは在外各支局の苦心である。あらゆる日常生活上の不自由は已むを得ずとしても、瓦斯マスクを背にしてタイプを打続ける特派員諸君の悲壯な覺悟を思へば、我々内地の者の苦勞などこの際にもすべきではないであらう。各支局が廿四時間勤務を強行されてゐることは一々の電報の發信時間が午前三時であり、午前四時半であるところから察知されるのである。

各國一齊に實施された嚴重なニュー

大戦勃發は又同時に宣傳戰の開始を意味する。第一次大戰の經驗に、最新の各種テクニクを加へた各國の宣傳組織が果然大車輪の活動を開始した。世界の空間にはそれこそ複雑怪奇なデマ放送が火花を散らしてゐる。同盟へ入電するニューも當然千種萬様である。然しながら同盟にはあらゆるソースからあらゆるニューが集つて來る。これをデスクで冷靜に色分けすると大體の見當はつく、この點入電ソースの限られた新聞社の場合に比べて一方的宣傳に誤まらるる危険は比較的に少い。戦争ニ

今度の戦争で一番ひどい目に遭つたのはワルシャワの森特派員であらう。九月四日ワルシャワ退去の直前に打電した同特派員の悲痛な電報は痛く讀者の胸を打つものがあつたが、それからブルリン、クルツエニエニエツク、ザレシエチキ、ツエルナウチを経てルーマニアの首都ブカレストに辿りつく迄の森特派員の苦勞は、死生の際在つて猶各地から打ちつづけた同特派員の報告電報によつて御承知の通りである。ブカレストの公使館から杜絶的な國際電話を通じてポーランド脱出記を送つて來た森特派員の聲は悲痛であつた。

戰況の進展に伴ひ各方面の情勢は愈々混沌を加へて行くので、外信部では各組合社の便宜を思ひ地名、人名、更に各種の問題の簡單な解説を出来るだけ頻りに送ることにしてゐる。又歐米支局との國際電話も出来るだけ利用して息詰る現地の空氣も遺憾なく傳へたいと思つてゐる。これ等の點について更に各支社局で御意見や御批評があれば遠慮なく御申出願ひたい（囑託）

今後幾年に亙るかも見當のつかぬ長期戦に對抗して本社では更に世界都市の同盟支局擴充については著々諸般の計畫が進められて居るが、先づその第一着手として、中南支總局の大屋久壽雄君（前ハ

直電は殆んど杜絶し、漸く到着しても十時間乃至廿時間も遅れたり、電報の頭や尻尾がなかつたりする有様であつた。この時ニューヨーク支局が僅かに檢閲をくづつて米國に入つて來る英佛ニューを逸早く轉電して下さつたことは、その後引續いての歐洲軍大ニュースの保護打電と併せて同支局にお禮を申し上げたい。

# 岩永家より基金寄贈

岩永社長の急逝は我々社員一同の哀悼の極みであつた。逝去の報と共に本社では直ちに委員を擧げ、社葬の準備其の他に心からの奉仕をなす一同悲しみのうちに嚴かに靈をお送りしたのであつたが、若永家では我々の心情を深く慰められ、その勞を多とされ、社員一同に對し懇篤なる感謝の言葉を寄せられたが豫て社長が吾々全社員の福祉に思を致されて創設せられた岩永基金に對し金五萬六千圓の追加寄附方を申出でられた。役員協議の結果その厚志をお受けすることとなり、之を故若永社長の遺志に副つて活用することに決定した。古野社長は社員一同を代表して若永家に對し感謝の意を表し、左の禮狀を送つた。因に若永基金は右により總計九萬六千圓の巨額となつた。

謹啓 陳者今回同盟若永基金として一、金五萬六千圓也  
御寄贈を辱りし御芳志感激に禁はず謹んで拜受仕候  
右御寄贈金は管理委員に於て本基金を創始されたる故若永社長の御遺志を體し同盟社員のため有効適切に運用仕り以て御厚志に應ふる所存に御座候  
右深甚なる感謝の意を表し度如斯に御座候  
昭和十四年九月二十一日  
社団法人 同盟通信社  
社長 古野 伊之助  
拜 具

### 岩 永 信 吉 殿

- ノイ特派員)をパリへ、香港支局の久野茂男、佐藤重雄の兩君を夫々ローマ及びベルリンへ増派することとなり、三君は何れも目下任地に向け急行してゐる。今試みに現在の歐米各支局の陣容を一瞥すれば左の通りである。
- ロンドン支局 長谷川才次、小寺巖、河上洪、松川梅賢、山之内留三郎
- ベルリン支局 江尻進、安運輔、大郎、友枝宗達、佐藤重雄(近く着任)
- パリ支局 入江啓四郎、本田良介、秋野伊八、井上勇、大屋久壽雄(近く着任)、ベルチナツクス(囑託)
- ジュネヴ支局 本田良介(兼)
- ローマ支局 下條雄三、久野茂男(近く着任)
- ブカレスト支局 森元治郎
- モスクワ支局 久我豊雄
- ニューヨーク支局 萩原忠三、寺西吳郎、大竹貞雄
- ワシントン支局 加藤萬壽男
- サンフランシスコ支局 皆藤幸藏、友松敏夫、海老名一雄
- ボーン支局 藤田英祥
- シンガポール支局 小林啓四郎
- シドニー支局 豊田治助
- マニラ支局 中屋建次、大谷純一
- バタヴィア支局 安藤利男、齋藤正雄
- ロサンゼルス通信員 山口清次
- ヴァンクーヴァー通信員 鈴木重一
- ホノルル通信員 淺海庄一
- リマ通信員 田村由之
- リオデジャネイロ通信員 椎野豊
- ブエノスアイレス通信員 岡部壯一
- ダヴァオ通信員 星篤比吉
- パンコック通信員 日高邦夫
- メキシコ市 海野稔

右の内ベリ及びベルリン支局は夫々戦線に記者を従軍せしめる様手配中である。

# 敵機襲來

## それ爆撃だッ！！

……と見た刹那、首筋寒かりき

### 小説以上の此の壯絶

#### 『生きてる前線レポート』

バルシヤガル前線にて 山田 實

北支總局聯絡部山田實君は従軍記者として北、中支に轉戦また轉戦を續け北京に勤務の日数は通算して六十日にも足らぬといふ全くの従軍男である、第一次ノモンハン事件にも眞先きに國通應援のために駆けつけたが第二次ノモンハン事件に當つては再度國通應援のため六月二十四日急遽新京に赴き、新京、チ、ハル、ハ、イラルと通信聯絡のため主要地に活躍、七月十三日から〇〇に赴き、あの七月二十三日のバルシヤガル高原に於ける激戦には文字通り砲煙雨下倅友戦死傷のうちに報道陣を死守してその使命を完ふした。

左の一文は當日の感激をそのまゝ筆に托したものである。支那事變中でも餘り例を見ない程の激戦さ中の前線報道陣の苦心、悲痛、感激そのまゝに生きた前線記事である。前線に掲載の筈で組込んだのであるが都合で本號に収録するに至つたことを御諒承頂きたい。(係)

七月二十二日夜半越境し來つた二千の敵機械部隊に對する國境外撃攘の命は二十三日午前七時に下つた。

この幾日來暴戾そのものの敵は露骨に國境を窺ひ、隙あらばハルハ河を渡らんとする態勢を示し有力なる敵砲兵も之に呼應、朝に晩に射ち出し來る砲煙は雨霞の如くであつたが、侵さず侵されずの原則を死守する我鐵血軍は只管隱忍自重之を黙殺し去つてゐたのであつた。腕を撫し齒切りして敵の横暴振を眺めてゐた我將士は總攻撃の命下ると共に士氣は沸然として揚がり正に天を衝くの概を示した。

この日國境ホロンバイルの空は高く晴れ、千切れ雲二つ三つ飛び交ふて絶好の砲撃日和であつた。七時半、一齊に火蓋を切つた我砲撃陣は、文字通り百雷の一時に落

つるが如く股々として轟き、天地震撼してハルハ河の流れも堰止むかと思はれた。北中支一年有餘の從軍中未だ嘗つて經驗せざる壯烈さであつた。敵また小續にも應戦し來つた事は勿論で、九い地平線上に我トラツクの間に炸裂の砂煙が間斷なく上つた。

運轉手の三名が居残り堀井、伊藤の兩記者、武井爲眞班員は朝早くから砲聲烈しき最前線に出勤してゐた。

敵機は同盟トラツクが他のそれと著しく異なる事を見し何か特別の獲物とでも思ひ違ひしたらしかつた、と言ふのは同盟トラツクは唯一豪白い天幕を張つてゐたのだら論私達は白い天幕を隠す爲出來るだけの擬装を施す事も怠る筈は

んとして通じるや否や電報無し、次一時と申し出た、之に對しハイラルは「一時は新京とやるから一時半にやる」と言ふ、然し夕刊切開の際の十分はニュースに決定的な運命を與へる、敢然前線に出勤した堀井、伊藤の兩記者が彈雨を冒し取材してゐる光景が眼に浮んだ。ハイラルの一時半説を覆へすため執拗に一時説を主張してゐた時ゴ



ノモンハン國境戦線に於ける同盟特派員の車上報道操作

なかつたが、トラツク側面に浮き出した大きな「國際運輸」の四字を隠す事を忘れてゐたのだ。

遠くの空を揺がせてゐた敵の爆音は、突如機翼を翳へてまつしぐらに我トラツク頭上に押寄せて來るではないか、朝から五回目的連絡のためキーを握つた私は、ハイラルとの連絡を逸早く切り上げ

の應答も聞かずスイッチを切つた機體を離れ乍ら地上に落ち來る爆弾が空で風を切つてゐる。グオー／＼たる唸りとブン／＼と金屬音を出す四十何機の爆音とがこの世の中を獨占してゐるかの如くであつた、何處に落ちるか解らない。この際取り得る最善の處置は穴にもぐるかトラツクの下に入る

事だ前者は昨夕の烈しい砲撃で前に居た場所を追はれて來た許りで未だ防空壕が掘つてない、今は後者を探るより外はない。トラツクを飛び下りてトラツクの下にもぐりこんだ時、ぐつと息のつまるそらに腹にこたへた重シヨックを受けた、耳がガンと言つてゐる、身體が痛いやうだ。

やられたか？

起き上らうとすると身體は何でもないのを知つた。濛々たる硝煙と砂煙が消えたとその一彈はトラツクから十米の所に直徑二米位のスリ鉢を作つてゐる事を知つた、近くで炸裂音の如何に烈しいものか意識する事が出来なかつた。

どうだ？

自分を取戻すと河原氏に聲をかけた

凄えなあ

と陽灼けた顔をもたげながら、「大丈夫」の代りに唯一語、そしてつゞやく如く

「耳が聾になつたやうだ。」

と手を耳に當てた。

「ロシヤ人は？」

と氣になつたので

「備好不好？」

と聲を掛けるとエンジンの下に隠すには餘りに大きな身體を持って餘すかの如くむつくり起き上り乍ら

「不好」と一言

と一言

「やられたのか？」

河原氏がかげ寄つて見ると無暴な敵機はこのトラツクへ十米近くに爆弾を落したのを最後に西の空に消えてゐた。露人は左肩脇腹等に五、六ヶ所破片が喰ひ込んだらしく白い膚の下に黒い塊が見られ血が流れる様にふき出してゐた。

野戦病院へ行つて纏帯して貰はう。

露人ではあるが報道人最初の犠

牲者と言ふ事が妙に頭をこんがらして、車に飛び乗るや否やアンテナを外し毛布を疊んだ。一刻も猶豫ならぬ氣持で……その時知つた事だがアンテナは今の爆撃にハリとしてゐた

切られたんだな

たち上つて見ると三本あるべき柱が二本きり、一本は破片に根本をやられて倒れてゐる。無様な光景だ。手足を折られた悲しさを隣間味はつたが、こんな忙しい現在そんな感激に長く浸る譯に行かなかつた。

野戦病院の幕舎に行つたが、廣い原の中で纏帯所は仲々見當らなかつた。幾つかの天幕を覗いたり炊事の兵に訊いたりして漸く尋ねあてた時は一時五分前であつた。幸に輕傷で御本人が私と一語にノコ／＼歩いてくれたのには救はれたが、時々左肩をゆがめる本人の痛さを思へば氣が氣でなかつた。纏帯所には三人の負傷者が土間に横はり治療を待つてゐた。來意を告げて手當て方を依頼すると直ぐ承知してくれた。

「傷は浅いから心配ありません」

軍醫の話の聞いてゐる中「一時に連絡を執らずに良かった、次に間に合ふぞ」と密かにそんな考へが胸を去來した。この時

「新聞記者がやられた。」

と言ひながら駆け込んで來た人があつた

「何處の？」

私は反射的に飛上ると表に出てその人の後を追つた、

「何社か？」

「負傷は？」

私は走り乍ら胸をいためた。四五人の兵隊がトラツクから擔架に乗せた儘下ろさうと努めてゐるのを目撃したのは直ぐだつた。

次一時半、と三回程言つた儘ハイラルの應答も聞かずスイッチを切つた機體を離れ乍ら地上に落ち來る爆弾が空で風を切つてゐる。グオー／＼たる唸りとブン／＼と金屬音を出す四十何機の爆音とがこの世の中を獨占してゐるかの如くであつた、何處に落ちるか解らない。この際取り得る最善の處置は穴にもぐるかトラツクの下に入る

「やられたのか？」

河原氏がかげ寄つて見ると無暴な敵機はこのトラツクへ十米近くに爆弾を落したのを最後に西の空に消えてゐた。露人は左肩脇腹等に五、六ヶ所破片が喰ひ込んだらしく白い膚の下に黒い塊が見られ血が流れる様にふき出してゐた。

野戦病院へ行つて纏帯して貰はう。

露人ではあるが報道人最初の犠

日滿支交驩競技 大會より歸りて

秋山與志三

九月初旬、大陸の首都新京で開催された日滿華交驩競技に特派の命を受けた私は、八月二十二日朝門司解纜の商船ウスリイ丸に乗船前日神戸から乗り込んだ日本代表軍に合流して

大連 を振り出しに新京、奉天の競技會をカバールした。今回派遣の我がスポーツ部隊は、陸上、蹴球、籠球、排球四競技の精鋭七十餘名で、三つのポールゲーム、チームは國內で編成し得る最強の陣容であり、陸上も遣獨軍に主力を分割されたとは言へ、OBの原田、村社、矢田、田中等を加へて立派な陣立であつた。競技的水準からすれば少しく蒼澤過ぎる顔觸れであつたが、大會の特殊性格も新東亞建設、興亞聖業の民族使命を双肩に擔ふ日滿華三國の若人が明朗な競技を通じて交驩を結ぶと言ふ建前からすれば當然の措置であつたかも知れぬ。

今回 の遠征旅行は一切奢侈を捨て、秩父宮御下賜の大日章旗と神木發火器を奉戴して鐵の規律下に行動した。最近夥しい日本人の渡滿でホテル難、住宅難を告げる新京に於いて、滿洲電業の修養道場たる都南寮を宿舎にあてがはれた我が代表陣が、枕を買ひ、スリッパを仕入れ、ウガヒコップを整へての生活は、過去幾度の遠征には見受けられなかつた光景であり、コンデイションの整調に細心の神経を拂ふ競技者には氣の毒

な日常であつた。

然しそれも、これも今では懐しい語り草となつた。新天地滿洲の凄じい息吹きに觸れた若きスポーツメンの胸中には旅行の苦しさ味氣なさを超越した人生的な感慨があるに相違ない。

単に競技會としては、大陸第一歩の大連に於ける歡迎試合が天候の上で且つ設備の上で最も立派であつた。始めて滿洲の地にお迎へする秩父宮御下賜日章旗の取り扱ひも見事であつた。暑かつた大連から僅か

半日 の新京は既に秋の氣配が溢れ、入京間もなく大陸には珍しい霖雨の襲來で氣温は著しく低下し、私は慌ててスウェーターをか合着を引つぱり出した。着いて直ぐ第一會場たる南嶺競技場に車を飛ばしたら、何と驚いたことに明後日が開會式だと言ふこの競技場は、約三千の苦力が砂糖菓子に群がる蟻の様に立ち働いてゐた。尤も蟻の様に、はしつこい動きは見られず、至極慢的な勞働であつた。アントワカのトラックは只赤い色彩のみにその裝備をうなづかせ、植へて間もないワイワイルドの芝は方々がまくれ上つてゐた。南北に走る舗裝大道から競技場に至る約二丁の砂利道も

凹凸 だしグルネワルトの大きい眺めであつた。大會豫算が通つて時日のなかつたことが、この始末を招いたのだから文句も言へず競技場建設に銳意専心した努力が降り續く冷雨に御算算となる悲運を同情すべきだが、實際は廣い新京の市街に日本中華の代表軍を迎へる準備に良心的な考慮を忘れたことは民政部體育官、滿洲國體聯當事者の責任ではあるまいか、更に私がリポーターとして最も憤慨に堪へないのは、大會スケヂュールの目まぐるしい變更で、殊に開會式當日の式典次第、第二日の日滿蹴球戦のもつれ、陸上の舉行延期に關する發表の遲滯澁滞など全く

齒が ゆい思ひをした。ドンヤ降りに近い猛雨の中で航空ベージュントがあると言ひ、入場行進をやると言ひ、或ひは洪水のトラツクを眼前にして陸上競技を開始すると嘯ぶいた「ハツタリ居士」の姿が今も眼に浮ぶ。實際私は新京では豫定稿恐怖症にかゝつてゐた。實際の變更で訂正が間に合はず、新京、奉天間の車中で讀んだ福日の大陸版に私の豫定稿が麗々しく掲載されてゐるのには命の縮む思ひがした。福日に限らず早い版の新聞にはこの嘘記事が氾濫したことだらうと思ふ。情ない斬である。(筆者は同盟大阪支社運動部員)

△病氣見舞

高野 勇 (本社タイプ部) 峰村新一郎 (同外經部) 武田 尚昌 (同運動部) 夫人入院 △弔 慰

訂正 前號「互助會報告」中「病氣見舞」の項に「大川幸之助」とあるは左の誤りにつき訂正す 和田 豊女 (本社庶務部) △病氣見舞

福岡支社 落成

滿鮮及び興亞大陸への重要聯絡基地たる福岡支社では機構の整理充實を期して本春來院院堀端に地をトシ建築中であつたが諸材料の統制時代にも拘らず順調に進行竣成、去る八月二十日を以て新館移轉を完了した。

右建築は福岡縣警署設計に成り防火防風の設備を施した三階建のスクリとした近代建築で一階は寫眞部、豫備室、應接室あり二階は通信部、發送部、無電室支社長室、總務室、食堂、更衣室應接室あり、三階は會議室となつて居り、福岡縣廳新館前から福岡市役所、福岡警察署の間を一直線に町餘、市の中心地天神町の電車交叉點からも一町餘縣教育會館、産業會館、圖書館の中間に位置し放送局の向側に軒並みは來る九月から中央電信局、中央電話局等の遷移關係の綜合廳舎建設に着手の筈で落成の上はまさに福岡の文化市街或は通信街を形成すべく同盟支社はその中間にあつて白壁美しく一威容を示して居る。

(第四面より續く)

見舞の挨拶を終へるや直ちに「何社の方です」と問ふと 大母の佐藤です。 唯一人付き添つて來た僚友大母の佐々木氏が代つて答へて呉れた。 何處で? ○○○の所で。 では矢張り私達と同じ所なのだ。 どんな模様であつたかを私は問ふたが、今の場合を詳しく聞くのが人情だらうか、負傷者を下ろす作業を止めて兵隊も私の出現を見てゐる。私は記者には失敗でも無い、執拗な質問を浴せなければ。 佐藤氏はそれだけ早く手當を受けられる、手當を早くせねばー！ 上のニュースが眞のニュースだと思つた。時計を見ると一時十分、一時三十分には記事を送らねばならぬ。残つて枕頭に坐すべきか、家のロシヤ人を伴れ歸るべきか、突嗟に考へが付き兼ねたが結局佐々木氏に後を頼みニュースを送る事に決めた。決心すると一刻も猶豫ならぬ。時計の針の廻るのがこの時ほど恐怖の感を誘つた事はない。もう一度見舞に來るつもりで別れたが、今から思へばこれが故佐藤特派員と最初にして最後の會見であり別れであつた。

元居た場所に歸り三ヶ所切斷されたアンテナを結び、根本から折られたアンテナ柱をたて、無電を打つ準備をした。 おお、その時正に一時十八分、一度姿を没した敵機は再び小標にも姿を現はし傍若無人にも三百米附近に十數ヶの爆彈を落して行くではないか

駄目だ、この場所が悪い。 アンテナ柱を三本車に積むや三條のアンテナをたくし上げた、車は六百米程走つて止まつた。飛び下りた河原氏がスコップで穴を掘り

アンテナを張ると又爆撃だ。三條の白煙を中空に引き乍らグリーンとエンヂンの音をたてると共に小標にも地上掃射もやるではないか。河原氏と二人トラックにもくつて待つ間も時計を凝視すると正に一時二十四分。 河原さんつと逃げやう。 三度アンテナを積んで走る事八百米、もう一時半に四分きりない。 山田さんもう逃げまいね。 河原氏がスコップで土を投げ乍ら話しかける。 さうね 私ほうはの空で聞き乍ら河原氏の言葉がうれしかつた。ロシヤ人が負傷しながらも苦痛を訴へず穴の中にもぐつてゐるが、車に逃げられてどうしてゐるかなと考へ乍ら電池に配線した。アンテナを張り終へたのが一時三十一分。スイツチを入れるとハイラルが頼りに呼んでゐる、私はそれに應へて「電報あり」と力強く叩いた。 「直ちに送れ」と言ふ、然し悲しいかな手許には原稿がないのだ。が私は弾力のある興奮の中にキーを握つてゐた。原稿はなくとも死をかけて経験した今の出來事はその儘原稿なのだ。 「通じるかな」 河原氏がそばへ心配げに來て口を添へたが、私は返事の代りにキーを叩き乍らうなづいて見せた。涙が目尻から洩れて頬を傳はつた。 何の感興か判らないが非常な感激の軟い手に愛撫せられてゐる如き感じだ。私達は生きてゐたのだ。(完)

互助會報告 (九月)

- △出生 猪股芳雄 (本社發信部) 第四子女 荻原榮治 (同) 上第二子男 △退社 小貫 良知 (本社外經部) 東 亨 (同地方部) 白尾 千城 (同總務部) 柏崎 才吉 (同出版部)

原稿の切は 毎月二十日です。

# 新聞とスポーツ (一)

## 秋山慶幸

米國では野球が生れてから今年が百年に當ると言ふので野球界は大騒ぎをして居る。一方瑞典でも今年に瑞典式體操を創始したり、グ氏の百年祭にあたりと言ふので之れまたオリンピックアドの向ふを張つてカリングアドと稱して大々的體操を行つて世界に呼びかけて居る。所で

### 我

が國の運動界はと言ふと外來スポーツの代表的なものとして居る野球が明治六年に東京帝國大學の前身當時の開成校の教師に招聘された米人ウィルソン及マゼットによつて傳へられたのを以て濫觴とされて居るから今日で約六十六年許りになる。日本の近代スポーツ史は大體此の邊から始まつたものと言ふ可く、これと相前後して漕艇、次いで陸上競技、庭球或は蹴球等と言つた具合に、今日行はれて居る運動競技の多くは何れも明治六年から十五年頃迄に輸入されたもので此の點から見て日本のスポーツ界は僅に半世紀を経過したに過ぎないのである。然し乍ら此の五、六十年間に於ける

### 進

歩發展振りは頗る目覺ましいものがあり、大學野球は米國のそれを凌ぎ陸上競技は世界記録を生む、更に競泳に至つては國際オリンピック大會に覇をとる事再度に及び幾多先進國を忽ちの中に追ひ抜き世界一流のスポーツ國を形成して了つた。これは日本の國家的發展を如實に示

したもので誠に痛快の至りであるが、さてスポーツ界が斯く迄も長足の進歩をなしたと言ふ事は、スポーツの持つ新鮮な魅力が恰も勃興期にあつたジャナリズムの對照となつた事が與つて力あつたと云へる。

### 日

本に新聞と名のつくものが生れたのは、文久二年幕府の藩書假調所が蘭領バダビヤで發行されて居た和蘭新聞を翻譯し、書店萬屋與四郎に命じて發行させたバダビヤ新聞を以て嚆矢とする即ちスポーツの誕生に先行する事約十年のわけである。その後明治元年から同六年迄の間に全國で發行された新聞紙の数は二百種に及ぶと言はれて居るが新聞は形式こそ半紙二折、木版ではあつたが逐次發展を遂げ明治三十一年十二月横濱で創刊された「横濱毎日新聞」が始めて現在紙の形式による一枚刷りの新聞紙を發行、次いで五年になると東京日日新聞、報知新聞の前身である郵便報知更に英人ブラック氏經營の日新眞事誌等が相前後して發行され當時の三大紙と稱せられた。

### 此

の中日新眞事誌は三、四年で廢刊されたが、東日報知兩紙が今日に到つて居る事は既に知られて居る如くであるが何れにしてもスポーツ傳來と新聞が近代の體裁を備へて來たのは殆んど同時で、スポーツが非常に限られた極少部分で行はれて居た事、更に當時の新聞界は海外の學術文

### 縁

なき衆生の類であつた。故天養木堂は壯年の頃秋田で新聞を創設した事があつたがこれに就いても「俺は新聞發行が目的では無いのだ、新聞によつて論陣を張り、立憲政體の何ものであるかを普及する事がその主目的であつた」と語つて居たと言ふが、この言葉は當時の新聞界を語るに最も相應しいものがあり、ある時代には全國新聞は自然と各黨派に色分けされた事さへあつた。斯うした中にも運動界は次第に整備を加へて來た教育施設や制度に便乗し、新時代を代表する學生群の支持を受けて確實な足取りで進歩を續け、最古の歴史を有する野球の如きは遂に二大私學早慶對抗時代を招來し、遂に當時としては全く

### 破

天荒な早大野球團の米國遠征が時時我が國が日露戰爭に國運を賭し戦つて居た明治三十八年に決行された。此の頃になると帝都では明治十六年六月十六日英人ストレーン教授の指導の下に開成校の後身大學準備門で行はれた、稍々組織の陸上競技會所謂運動會も漸く發達し當時の年中行事の一に數へられるに到つた。明治十一年體操傳習所の開所と共に正式に始められた庭球も明治十一年十一月には傳習所を附屬校とした東京高師と東京商大の前身東京高商の間に我が國最初の對校庭球戦が行はれて三十八年頃には早慶の擡頭で混戦時代を招來、

### 運

動界と新聞が交渉を、と言つてもそれは單に記事上の事だけではあるが、更に角關係を持つ様になつたのは此の頃のことである。今その全部を云々する事は出來ないが、明治三十六年初めて顔を合せた早慶兩校の野球記事が紙上に求めると當時學生新聞の稱あり、東部新聞界に雄飛して居た萬朝報と三田系の時事新報がこれを報道して居り、東京朝日新聞、東京日日新聞兩紙上にはこれを求める事が出來なかつた。

### 再

即ち當時の野球記事をその儘録して見ると次の通りで選手顔觸れの決定から報じて居るのも面白いし、時事新報は獅子内謹一郎氏を謹一と報じ、早大の左翼手鈴木豊氏を似ても似つかぬ猿瀨順として居る、尤もこれは當時早大軍に居た猿瀨順氏の誤りと思はれるが何れにしても誤報に間違ひはなく、運動記事誤報のトップを切つて居る形であるのも愉快である。

### 萬朝報

(明治三十六年十一月二十日紙上)  
 ▲早稻田大學 慶應義塾對野球試合  
 試合は明日(土曜)午後一時より芝區三田綱町蜂須賀邸裏手なる慶應義塾運動場にて開始、兩校は今月初めての顔合せなれば選手連の意氣大に昂れり、當日の選手は左の如し

押川	宮原
小原	柳 彌五郎
獅子内謹一郎	宮本熊三郎
久野	吉川
鈴木	高濱 徳一

### 時事新報

(明治三十六年十一月二十二日紙上)  
 ▲慶應義塾對早稻田大學  
 (平日紙上参照)  
 早稻田對慶應の野球試合は昨日午後一時半より三田慶應の運動場にて舉行さる、其結果左の如し。

早稻田	0 5 1 2 0 0 2 0 1 9
慶應	0 2 1 2 4 5 6 7 8 9
回数	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
早稻田	0 5 1 2 0 0 2 0 1 9
慶應	0 2 1 2 4 5 6 7 8 9

### 野球試合

同試合は既記の如く昨日午後一時より綱町蜂須賀邸内運動場に於て催されたが、初対面のこととて勝負何れとも豫想せられず殊に慶應の方には宮原、時修、柳などいふ所謂東海道武者修業連あり早稻田の方には往年神戸にて外人と戦ひて名を博せし泉谷又第一高等學校の選手を破りたる橋戸等剛の者あるを以て、各選手の意氣は益々奮然となく、實に滿都野球界の注目して私立學校の模範試合となす所たりし、左ればにや各學校より見物人約數千と註せられ非常なる盛會なりしが、今其狀況を記さんに、第一回は双方共を得る所なく、第二回は慶應方の出足少しく遅れたると投手の手の狂ひたる爲め漸く二點を得たるに反し早稻田四球を出して一舉に五點を收む、第三回は双方一一點を得、第四回は早稻田の無點なるに對して慶應二點を博し、第五、六回は双方得る所なく、第七回は双方二點を得たり、此時慶應の宮原氏は部の強直を起し暫時試合を中止せしも間もなく繼續し、第八回に至り宮原氏は身に故障あるを事ともせず中堅と右翼との間を貫き一舉に二點を得たるより他の選手大に元氣を鼓舞し、早稻田はあはれ一點をも得る能はざりしに引反へ慶應は四點を收め早稻田の合計八點に對し十一點を占め、大勢已に定まりたれば最後の九回に於て早稻田最も善く戦ひ慶應無點なりしに反して一點を得たるも、惜しいかな遂に前手を挽回するによしな

に午後三時三十分なり。

**銃持つ心で 銃後に盡せ**



**大阪支社** 大鋸 時生  
 通信部長  
 滿洲國通信社(出向)ヲ命ス(九・二二)  
 聯絡局規畫部社員 近藤 精教  
 整谷(出張)ヲ命ス(二〇・一)  
 大阪支社社員 田中 一夫  
 聯絡局聯絡部勤務ヲ命ス(九・二二)

**聯絡局規畫部** 田島 義雄  
 社員試用 阿部 正文  
 北支總局勤務ヲ命ス(九・二〇、各通)  
 内信局經濟部社員 上野 貞夫  
 北支、蒙疆(出張)ヲ命ス(九・一四)  
 内信局政治部社員 小山 武夫  
 中南支總局臨時在勤ヲ命ス(九・一八)

**外信局發信部** 上木鐵之進  
 社員試用 橋原 實  
 中南支總局勤務ヲ命ス(九・一九各通)  
 外信局外信部社員 佐藤 剛  
 香港支局勤務ヲ命ス(九・二〇)  
 聯絡局規畫部 今高 隆二  
 廣東支局勤務ヲ命ス(二〇・一)  
 准社員試用 大川 信吉  
 同 中村 二郎  
 廣東支局勤務ヲ命ス(九・一五各通)

**京城支局社員** 山野 喜祝  
 大阪支社勤務ヲ命ス(九・二五)  
 滿洲國通信社(出張中)  
 (内信局社會部社員)  
 本社(歸還)ヲ命ス(九・二〇)  
 廣東支局臨時在勤  
 (聯絡局規畫部社員)  
 津川 勝美  
 本社(歸還)ヲ命ス(二〇・一)  
 准社員ヲ命ス、聯絡局規畫部勤務ヲ命ス  
 齊藤 清  
 准社員ヲ命ス、聯絡局聯絡部勤務ヲ命ス  
 梶川 昭  
 准社員ヲ命ス、關門支社勤務ヲ命ス(二〇・一)  
 松尾 友文  
 准社員ヲ命ス、青森支局勤務ヲ命ス(九・二二)

**福島キヨ子** 准社員ヲ命ス、神戸支局勤務ヲ命ス(九・一)  
 韓 能 夏 社員ヲ命ス、徐州支局勤務ヲ命ス(二〇・一)  
 坂口 三郎 社員試用  
 内信局政治部勤務ヲ命ス(九・二二)  
 社員試用 大橋 傳  
 外信局外信部勤務ヲ命ス(九・一八)  
 社員試用 河野 京子  
 外信局英文部勤務ヲ命ス(九・二〇)  
 社員試用 小澤 俊則  
 聯絡局聯絡部勤務ヲ命ス(九・一九)  
 社員試用 木田 正夫  
 事業局調査部勤務ヲ命ス(九・二六)  
 社員試用 勝目 晃也  
 福岡支社勤務ヲ命ス(九・一八)  
 社員試用 小倉 正久  
 長崎支局勤務ヲ命ス(九・一五)  
 社員試用 金 裁 煮  
 京城支局勤務ヲ命ス(九・二七)  
 准社員試用 古川 長作  
 總務局經理部勤務ヲ命ス(九・一八)  
 准社員試用 林 八重子  
 名古屋支社勤務ヲ命ス(九・一五)  
 准社員試用 佐藤 タケ  
 横濱支局勤務ヲ命ス(九・一六)  
 神戸支局社員試用 酒井 眞幸  
 社員ヲ命ス(二〇・一)  
 釜山支局社員試用 井上 俊一  
 社員ヲ命ス(九・一)  
 京城支局社員試用 竹林 修三  
 社員ヲ命ス(二〇・一)  
 福岡支社 國枝 潔  
 准社員ヲ命ス(九・二二)

**外信局發信部** 山内 利三  
 准社員試用 小田島房志  
 青島支局 同上 藤田 正臣  
 中南支總局 同上 藤田 正臣  
 南京支局 同上 藤田 正臣  
 香港支局 同上 井出 新六  
 漢口支局 同上 戸國 清太  
 廣東支局 同上 田中マサ子  
 神戸支局 同上 山西 美江

准社員ヲ命ス(二〇・一、各通) 田代 政夫  
 中南支總局ノ事務ヲ囑託ス(二〇・一、各通) 大石 藤男  
 リマ通信員ヲ囑託ス(七・一) 中島 一夫  
 熊本通信員ヲ囑託ス(九・二二) 村田 昇司  
 豐原通信員ヲ囑託ス(九・二二) 廣島支局社員 小松 義明  
 福岡支社社員 酒井 静子  
 職員規程第十九條第二項ニ依り休職ヲ命ス(二〇・一、各通)  
 京都支局休職 村尾 武一  
 休職期間満了ニ付解職(九・三〇)  
 滿洲國通信社出向社員 内信局經濟部勤務 細川 清徳  
 滿洲國通信社(歸還)ニ付退社(九・二五)  
 熊本支局社員 安野 滿藏  
 死亡(九・二二) リマ通信員 山本邦之助  
 依願解職(九・三〇) 熊本通信員 吉井 勝人  
 依願解職(九・一) 外信局英文部 竹内 喜美  
 社員試用 中山 民也  
 長崎支局社員 依願解職(九・一五) 岡本 政美  
 京都支局社員 依願解職(九・一八) 杉 常磨  
 大阪支社社員 依願解職(九・二〇) 柏崎 才吉  
 事業局調査部 社員  
 依願解職(九・二二) 大阪支社社員 木島 順二  
 横濱支局准社員 森 八重子  
 依願解職(九・二二、各通) 大阪支社社員 柴山 正男  
 同 准社員 松田 留吉  
 同 准社員 松田 正雅  
 依願解職(五・二五、各通) 内信局タイプ部 湯淺 義正  
 准社員 依願解職(九・二六) 大阪支社准社員 西岡壽美子

依願解職(九・二七) 依願解職(九・三〇) 依願解職(九・三〇) 依願解職(九・三〇) 依願解職(九・三〇) 依願解職(九・三〇) 依願解職(九・三〇) 依願解職(九・三〇) 依願解職(九・三〇) 依願解職(九・三〇)

**安野滿藏君**

熊本支局勤務社員安野滿藏君は八月十三日來胃腸を患ひ靜養中九月二十三日午後八時、熊本市東坪井町三四の自宅で逝去した。行年三十九。君は舊電通熊本支局より

**同盟映畫**

**製作週報**

△月報第十六輯 田村潔君應召、大作「新大陸」の最終編輯録音、若佐君病氣等の悪条件續出せるため製作決定が著しくおくれたが前記諸事情一段落と共に製作開始、二十三日中にシナリオ完成、撮影に着手、三十日録音の豫定、内容は「特輯歐洲大動亂と日本」と決定してある。

△大作「新大陸」(田中喜次、桑野茂、渡邊義美構成、上田勇、潮田三代治撮影)最後の編輯を終り去る十五、六、七日の三日間に互に仁木他喜雄氏以外の新響及中響の樂師出演の下に録音を行つたが十四、五日頃より急激に悪化する電力供給の状態よりサイクル數に不足を來し爲に十七日録音済ラッシュ試寫の結果各ロール毎に甚だしい團轉を來し發見、到底使用不能につき直ちに録音を九分通り終らせるまゝ中止、KSTキー技術主腦部とも協議の結果直ちに技術的に應急施設を行ふことになり來る廿七、八、九の三日間再録音の豫定、尙作曲指揮者仁木氏は日下南支方面旅行中につき他の指

同盟支局に引繼かれ速記者として報道界に貢献するところ少からず直情徑行、眞摯なる性行は廣く知友間に敬愛せられてゐた、病進み一切の飲食を攝る能はざるに至つた時、看護の夫人が「これでは同盟に對し報恩の望みは棄てたか」と云ふや餘力を驅つて開口し滋養劑を攝取し、又意識朦朧として全く人事を辯へざるに至るも、家人が耳許にて「同盟」の語を告ぐる

や微笑を以てこれに答ふるなど死に至る迄同盟に對する關心を捨てず、醫師より數回に亙り死期迫れりと宣告されたる同君は、再起して同盟のため奮闘せんとの熱烈な願望のため少くとも一週間の命數を延ばし得たと、主治醫も君の同盟に對する熱情に驚嘆してゐる僚友として誠に痛惜に堪へぬ。(R記)

揮者を選択の豫定、ネガ整理は佐伯女史の手で既に完了  
 △「日本の概観」撮影終了、「新大陸」完成次第編輯録音着手、同映畫の本日までの撮影フィルム數左の如し  
 ネガ(アシ・S・XXX・アグアア同URを含む) 三五八一呎  
 デュエーブネガ 八五呎  
 ラッシュ(アシ・ボン) 三六〇一呎  
 △「鐵道挺身隊」追加撮影分續々到着、一兩日中に再編輯開始、追加撮影フィルム左の通り  
 ネガ(同前) 二五三二呎  
 ラッシュ(アシ・ボン) 同呎  
 △「蒙疆映畫」蒙疆政府よりの委託により北支より歸朝せる川口キヤメラマンが自ら編輯中、此程第一回編輯を終了した、撮影全フィルム左の通り  
 ネガ 三三三〇呎  
 デュエーブネガ 五六八呎  
 ラッシュ 三四七四呎  
 △月報第十二輯「ラヂオステイ」の號外版(日本電氣無線委託映畫)は七日川口放送所及名崎放送所を撮影、九日録音を終了したかアナウンスに誤りありたるため再録音と決定「新大陸」録音終了次第實施の豫定  
 △「廣東婦女團」大小島君入院中のため八住君一部撮影、八月二十

九日以後九月十八日までの使用フィルム左の通り  
 ネガ 三五八呎  
 デュエーブネガ 二五呎  
 ブループリント 二五呎  
 ラッシュ 三五八呎  
 △「岩永前社長葬儀」前社長葬儀實況のニュースフィルムを渡邊君編輯にて完成、前社長邸へ贈與の豫定、約一千呎の見込み。  
**山の寫眞展**  
 石部氏の作品  
 曩の漢口攻略戦と不動氏の復興北支寫眞展に奏効した福岡支社では更に國際寫眞新聞に掲載された石部經理部長の「山の寫眞」を新築落成記念として石部氏個人の作品によつて山の寫眞展を催すべく幸に同氏の諒解を得、石部氏は過去十年間における作品の整理と引伸作業に努めた結果、日本アルプスの雪景、藏玉山の霧氷等をこれこそ冷風自ら起つて衣袂を拂ふ體のストックリした逸品百十餘點が出来あがつたので八月十七日から二十日まで西日本一大デパート福岡市の中心地若田屋にて開催したが開場勿々から大人気、近くにコウ山そのものゝ紹介ともなり取材の傑出と手ぎれいな仕上げとは連日觀賞者の絶讃を博した。